

セ ン タ ー
便 り

絆
きずな

第186号

発行所

社会福祉法人
西 陣 会

HP: <http://www.nishijin.org>
E-Mail: nishijinkai@nishijin.org

〒602-8464
京都市上京区元誓願寺千本東入ル
TEL (075) 451 - 8971
FAX (075) 451 - 5700

発行者: 南大路 文子
編集責任: 土 屋 健 弘

郵便振替口座
01030-5-23086

ホームページでも
ご覧になれます

当法人への寄付金は、課税控除対象となりますので、その為の受領書が必要な方はお申し出下さい。

かたわらにいといるということ

理 事 中 山 あ い

京都府立盲学校在籍のS君との出会いは15年ほど前のことでした。学童クラブに帰ってくるとS君はまず、手探りで何がどこにあるのかの探索や、まわりの人の顔をさわります。時として、ほかの子が遊んでいた将棋やおセロをぐちゃぐちゃにしてしまったり、工場の作品をつぶしてしまったり。ほかの子は、「うわーっ S 怪獣がやってきた! あっちいけ!」と叫んでいました。でも何日かすると、つぶされないように先に場所移動する子や、S君が好

きなおもちゃを手渡しして気をそらそうとする姿が見られるようになりました。ある時は、「Sがロッカーによじ登ろうとしている! あぶない!」と教えてくれたり、身体を支えて登るのを止めてくれる子も出てきました。

しろうけんめいS君の気持ちを考えてくれました。S君はみんなの心配をよそに、泣き疲れてか見守られながらいつしかすやすや……。最初はS君を、わけのわからない突然の侵入者のように感じていた子どもたち。でも、S君のことをだんだん知るようになり、受け入れ、ときには腹が立って意地悪を言ったりしたりすることもあったけれど、S君はしっかりと学童の仲間になつていきました。

来館日には、学校までお迎えに行くKちゃん。Kちゃんと職員が手をつなぎ、ほかの子たちも一緒に帰ってくるのが日常でした。ある日、いつものようにお迎えに行っても、Kちゃんは教室にいません。友達と帰っていったとのこと。歩行が不安定なKちゃんが転んでけがなどしないかと慌てて追いかけたところ、なんとも楽しげなわらい声をあげながら、二人の友達としっかり手をつないで、歩いて

いるではありませんか。「子どもたちだけで帰るなんて、どれだけ心配したか」と言いかけたところ、「私たちが帰って帰って来たから」と誇らしげな三人。その日以降職員は、少し後ろからついていき、何かの時にはサポートに入れるよう、見守ることにしました。子どもたちのかかわりあ

役 員 改 選



私たち西陣会は、もうすぐ六十周年を迎えることとなります。ここに至るまでに、多くの方々のお支えがあつて事業が継続されていることに對し、改めてお礼申し上げます。

さて今年度は、評議員・理事・監事の改選の年度でした。長期にわたりお支え頂いてきた方のご退任と、新たにお支え頂く方の就任もありましたので、ここに報告させていただきます。

変化に富む時代を迎えています。これからも地域課題と向き合い、真摯に取り組んでいきたいと考えていますので、皆様には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

新 役 員

評議員	佐々貴義全
評議員	叶 信治
評議員	赤井 英俊
評議員	喜多 泰弘
評議員	平松紀代子
評議員	宮川 知子
評議員	マサ・メンセンディーク
評議員	渡邊 和明
★評議員	久門 誠 (6月1日)
理事長	南大路文字
理事	武田 康晴
理事	平田 義
理事	山本 恵
理事	福井 治子
理事	土屋 健弘
理事	中山 あい
理事	宇川 征宏
監事	菅 恒敏
監事	村井 喜治 (★は新任)

評議員就任にあたって

久門 誠

この度、貴法人の評議員を務めることになりました久門(ひさかど)です。身に余る重責ですが、西陣会の歴史と実践から学ぶ機会をいただいたとも思っております。

いと強く感じています。微力を尽くして参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

感謝とお礼

南川 邦夫

西陣会に関わってから五十年余り、胸に手をあて目を閉じますとつい昨日のようになつかしくよみがえってきます。

親しくお世話になった方、一緒に働き行動を共にし、喜び励まし合った仲間たち、あれもこれもなつかしい思い出で一杯です。

本当にありがとうございます。印象に残ることと云えば、どうしても資金集めに関わることです。

大勢の中で、はずかしがりやで気弱の私「お願いします」と大声で叫ぶことができるようになりました。小さな働き、どんな持ち場でも自信になりました。

大好きな西陣会の皆さん、本当にありがとうございます。貴重な経験、西陣会での関わりと感謝お礼申し上げます。

来年2022年度に、六十周年を迎えます。

『西陣会の理念と活動』に、次のような一節があります。

1960年に西陣の地に小さな種が蒔かれ、1962年には同志社大学をはじめ多くの人の支えの結晶として建物が与えられました。

それから六十年というおきな節目を記念して、来年度は「記念式典」の開催や「記念新聞」の発行を予定しています。

記念式典については、新型コロナウイルスを取り巻く社会情勢に注視しつつ、2022年秋頃開催についての検討をこれから開始いたします。

記念新聞については、主に五十周年を迎えた2012年から現在までの十年間のトピックスについて掲載していく予定です。

皆さまとご一緒に六十周年を迎えたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祝い申し上げます。

地域生活支援ニュース

西陣会居宅サービス係

親子二人三脚の歩み

高田 恵里



「学校へ出発！
アオフェス頑張るよ〜！」

日1時間の時短勤務をしていきます。制度が明確に整っていることもありますが、安心して働けてい

職場復帰の最大の心配は娘が強く望む母乳が続けられるかどうか……
娘は産まれて2ヶ月程、上手くおっぱいを吸うことが出来ず、どうしても吸って寝たくて夜通し起きていたこともありました。
私は乳腺が詰まって高熱が出たりしながらも親子で授乳練習の日々。
2ヶ月で少しずつ吸えるようになるも、1時間に1回授乳。1日が授乳で終わるが生後半年頃まで続きます。

した。そんな中、娘0歳8ヶ月で保育所と私の職場復帰。娘は保育園で哺乳瓶での搾乳が飲めるのか？
私も職場で搾乳にて体調良好で働けるのか？経験したことのない不安が募りました。復帰前、部署の上司との面談。私の体調や搾乳優先で、勤務や支援を組んでもらえると就業規則や労働基準法に基づいて1つ1つ確認し、また0歳児の子を持つ親が使える育児時間というものを使い、現在1

ます。
現在保育園に通い始め、2か月強が経ちました。娘は風邪は引いても熱は出ず元気。保育園での搾乳も問題なく飲めていて、家含め母乳に固執なく卒乳近しと

デイセンターふらっと

「ままならない」から楽しみを

植木 悟男

「海水浴」と、私たちに言葉やジェスチャーで伝えてくださるご利用者がおられます。暑くなり、天気もよいためでしょうか。
「海水浴いこうよ！」「海水浴まだ！」「海水浴今年はあるの？」など皆さんの伝えてくださる「海水浴」というメッセージから、総じて毎年行っていた海水浴をとっても楽しみにして下さっていたことが伝わってきます。
新型コロナウイルスの感染が終息しない中、海水浴をはじめとした、今まで当たり前に行ってきた外出や活動に、一年以上たった今でも多くの制限がかかり、楽しみにして下さっているご利用者

いう印象です。育休中、私が体調不良で娘大泣きの時を思えば、私が元気で育児出来ていることが娘にもいい影響を与えられているように思います。職場には感謝でしかありません。無事

に卒乳して、娘が大きくなって悩んだ時、赤ちゃんの時に自分の意思でやり遂げたこの話をしてあげると同時に、その背景にはたくさんの方が支えてくれたことを話そうと思います。

には、仕方がないこととはいえ申し訳なく思います。自分自身に置き換えても、外出を控え、人の集まる所を避けるという生活は、一年以上が経過した今でも、小さな違和感があります。ただ同時にこういった日常生活における「ままならない」思いは、今回だけが特別ではなく、常に私たちの身の回りに多く存在していることに改めて気づかされる機会にもなりました。
デイ全体での外出や活動は難しいですが、少しでも楽しみにつながればと思ひ、個別に散歩の時間や行き先を増やし、休憩時間に視聴される映像や音楽に新しいものを取り入れています。いろいろな制限の中で、「ままならない」ことに捉われがちですが、そんな中でも楽しむ気持ちをもって、ご利用者と一緒に、少しずつ、日々を楽しんで過ごせるような工夫をしています。ばいばい、と思っています。



橘児童公園

シエアハウス小松原の家

暮らしの選択肢のひとつ

森 勇輝

皆さまこんにちは。今年
は梅雨入りが早く雨が少な
かったのですが、その分を
取り返すように梅雨明け前
に固まった雨の日が続きま
した。土砂災害のニュース
などもでており、たくさん
の被害状況を見て胸を痛め
ていました。各地の方たち
が無事に、安全に過ごされ
ることを祈っています。シエ
アハウス小松原の家はとい
うと、昔ながらの建物では
ありますが雨にも負けず、
風にも負けず。入居者の皆
様の家としての役割をしつ
かりと果たしてくれていま
す。本当私たちにとって大
きい存在だと改めて感じま
す。

先日、内部で会議を開い
た際に「これからの利用者
さんの生活」について話す
場面がありました。年々、

新たな制度ができることで
障がいのある方たちの暮ら
しの選択肢が増えてきてお
り、福祉に携わる1人とし
てとても嬉しく思っていま
す。その中で「シエアハウス」
という暮らし方はどういう
強みがあるのか。どんな方
たちが暮らしやすいと感じ
るのか。ご家族の皆様に関
配なく安心して任せていた
だけなのか。共同生活の楽
しさやしんどさってどんな
ものなのか。色んな視点で
色んな人の意見を聞きなが
ら、一人一人の利用者さん
に合わせた生活を考えてい
く必要があると思います。
僕たちもそうですが、きっ
と完璧な暮らしに中々たど
り着けないと思います。そ
の中でも「この暮らし方な
らできるかな」とか「この
暮らし方やってみたい！」

と思ってもらえるような選
択肢をたくさんもっておけ
るようにしたいと思ってい

地域活動支援センターふらっと

「当たり前前の居場所」

ボランティア 倉橋 基

地活ふらっと(夜ふら)
は今年で32年目を迎えます。
週三回各曜日で個性豊かな
ご利用者の皆さんと、職員・
ボランティアが一緒になっ
て夜の余暇活動を作り上げ
てきました。

しかし、昨年4月以降コ
ロナ禍が夜ふらにも大打撃
を与えることになりました。
外食やカラオケなど「おで
かけ」の活動はできなくな
り、各曜日のご利用者さん
を半数ごとに隔週で参加し
ていただく形に。そして、
緊急事態宣言中は「夜間の
集団での余暇活動」のため
休止せざるを得ないことにな
りました。

ます。そして「シエアハウス」
という暮らし方が一つの魅
力的な選択肢としてさせる

私は、夜ふらに関わって
6年目になりますが、今回
のコロナ禍で、夜ふらがご
利用者さんにとっても、私
にとっても「当たり前前の居
場所」であったと感じ
るようになりました。

これまではある
ことが当たり前だった
夜ふらが、これま
でどおりにはできな
いという悲しさ、つ
らさ。私もですが、
夜ふらに関わってき
た西陣会のみんなが
思っていることだと
思います。
コロナが一刻も早
く終息して、「当た

ように、一生懸命取り組ん
で色んな方たちに知っても
らいたいと思っています。

30年以上積み重ねられて
きた歴史が夜ふらにはあり
ます。コロナに負けること
なく、終息後はさらなる進
化をしていけるよう私も微
力ですが頑張っていきたい
です。



「また、旅行に行きたいですね！」

支援センター「きりりんく」

コロナ禍中で思うこと 続

相談員 箕浦 佐知子

昨年の絆夏号に「出口のないトンネルは有りません」と、コロナ禍脱却のエールを書いたのですが、一年経過した今も状況は続いています。

こうなったら持久戦。長いかもしれないですが、必ず訪れるトンネルの出口まで、自分なりにできることを考えました。

三密を避け、消毒・マスク・換気、そして機会が得られれば予防接種を受けるなどの罹らない対策もそうですし、質の良い睡眠・入浴でリラククス・免疫力を高める内容の食事、などの発症させない対策。

そして私が信じてやまないのは「笑顔」による免疫力アップです。

「こんなストレスフルな状況で、笑えることなどあるものか」とおっしゃらず、意図的に口角をニッと上げてみませんか？

笑う振りをするだけで、脳は案外その気になって、体内の免疫物質の濃度を上げてくれるそう。「颯の頭も信心から」ですよ。

照れないで、ご一緒に如何ですか？どうせマスクで隠れていますから。

お話する時、電話を受ける時、見えなくてもマスクの中で微笑みからスタートする言葉で、相手をお迎えしたい。

しかも自分の免疫力までアップするのであればお得意じゃないですか。

柔らかい眼差し、微笑み、労わりや感謝の声掛け、などなど様々な所作で、周囲に接することが、私なりのコロナへの戦い方だと思っています。

自分をにっこりさせる栄養源として、こどもが幼かった頃の可愛い写真を引き張り出してきて、時々眺めてチャージしています。

支援センター「こごたん」

たくさんの方の支えを糧に

万代 由香利

私事ですが、昨年末、骨折して入院しました。その時、入院・療養生活を本当にたくさんの方が連携を取りながら支えてくださいました。

弱っている時、不安な時、温かい声かけにどれだけ救われたことか……

自分の体を思うように動かせないことがどれだけしんどいことか……

私は普段、相談支援業務に携わっており、障害のある方の地域での生活を支える仕事をしています。ご利用者さんやそのご家族からの相談に、しっかりと向き合い、安心していただけるような温かい声掛けができていたのだろうか？

障害のある方が抱えておられるしんどさに寄り添えていたのだろうか？

自分の価値観で物事を判断していなかっただろうか？

障害のある方が地域で安心して生活していたため、地域の支援者の方々と連携を取りながら、適切なコーディネートができていたのだろうか？

今回の入院・療養生活の中で、たくさんの方に支えていただいたことで、いろいろなことを感じ、考えさせられました。

そして、まだまだ足りないところがたくさんあることに改めて気づかされました。

骨折したことは決して喜ばしいことではないのですが、とてもよい経験をさせていただいたと思っています。

この経験を糧に、ご利用者の気持ちに

寄り添った、支援者の方々によりよい連携の取れるコーディネートができるよう努めたいと思います。



星の国の子どもたち (パレード♪)



願いが届きますように…… (ぼこあぼこ)

路地裏ステーションニュース

西陣児童館

「たからばこ」

鬼塚 義正

児童館の建物の階段下に1981年定礎と書かれたプレートが取り付けられている（いつの間にか81の1が取れてしまっているが）。

漠然と今から40年前に建てられた児童館なんだから、なあと思っていたが、古い絆を遡って調べてみると、1981年の12月5日に竣工式、14日に開館と書かれています。

定礎と書かれたプレートは、西陣児童館でも建物を建築する際に設置されたようだが、調べていると、世間では定礎プレートの中には「定礎箱」なるものが入っていることもある。建物建築時に所縁のあるものが一般的には入っているようだが、まるでタイムカプセルか宝箱のように感じられる、もしかしたらここにもあるのかもと思わず期待を募らせてしまった。

40年前、西陣市民センターの活動を発展させるべく、多くの人の夢や希望や汗の結晶として完成した児童館。私自身はそんな先人達の想いをどれだけ受け継いでいるだろうか。きっと当時新しく建設する児童館に夢や希望を抱き、素晴らしいことができると確信を持って、奔走し尽力した先人たち。当時の絆から抜粋すると、人として共に生きられる場、ともに想い合える場になってほしいと、大きく夢を持って、やってゆきたい。

こう記載されている。そして、異なる年齢や立場、地域をどうつなぐのかがキーになるのではないかと既に名言されていた。

昨今、世の中が急速に変化している。昨年から感染症対策もそうだが、子どもを取り巻く法制化も家族の環境も。しかし、当時から変わらないのは、いま何が大切かを考え取り組むこと。児童館という宝箱には40年経った今でもこれからの夢も希望も詰まっている。と今の職員の私たちが確信している。

京都市障害のある中高生のタイムケア事業「ういず」

変わらぬ存在

月契約職員 細井 夢子

新型コロナウイルスが日本で流行して約一年が経ちました。昨年三月ごろだったでしょう。当時大学二回生だった私の生活に変化が始めたのもこの頃でした。

まず、はじめにサークル活動に支障が出ました。私は大学のダンスサークルに所属しているのですが、四回生の卒業イベント、冬合宿が中止になりました。

もどかしい気持ちのままも、今年度がスタートし、今度新年度のすべての授業が遠隔授業になりました。慣れないアプリ、パソコン操作に戸惑い、一つの講義の間、教授の音声が聞こえないまま受講したこともあった気がします。

「いつになったら、今までのような大学生活が送れるのか」そう考えながら生活していると、気が付けば一年の月日が経ち、私は大学四回生になっていました。

このように大きく変わってしまった私の生活ですが、唯一変わらなかったものが

あります。それが「ういず」です。ういずに行くという予定だけはコロナ禍でも変わりませんでした。遠隔授業を終えた後、ういずの教室に向かい、子どもたちやスタッフの皆さんと顔を合わせると、今考えたら、そういった何気のないことに元気をもらっていたのかもしれない。

息苦しいコロナ禍の毎日に嫌気がさすこともありましたが、最近では勉強・遊びにしても「今出来ること」に向き合うようにしています。そのような中でもやはり、いつも変わらずいてくれるういずが私は大好きです。ういずでの時間を大切にしたいと思います。

ういずが閉所するから会いに来てネ展特別企画 近況お知らせください！

「ういず展」では、これまで出会った皆さん全員の、当時の写真展示もおこないます。そこで、お願いします！

現在（卒業後）のお写真や近況等をお送りいただけないでしょうか？

当時の写真だけじゃなく、一人でも多くの皆さんの「その後」にも会えるような展示にしたいと思っています。お送りいただいた方には記念品もご用意しています。ぜひ、ご協力お願いします！

送り先（〒 / WEB / メールどれでもOK）

- ①ご氏名、②近況等メッセージ、③記念品送付先ご住所、④写真を添えてお送りください。

〒 602-8464 京都市上京区元四丁目 430-2 「ういず展」係宛
メールは konishi@nishijin.org 小西宛です。

WEB 送信用



活動日誌

【本部業務・公益事業】

4月

- 23日 総務委員会
- 26日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 産業医面談相談会
- 安全衛生委員会

5月

- 7日 評議員選任・解任委員会
- 法人監事監査
- 22日 理事会
- 24日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会

6月

- 12日 定時評議員会
- 理事会
- 14日 管理職研修
- 21日 キャリアパス&人材育成計画推進委員会
- 24日 月曜集会
- 産業医面談相談会
- 安全衛生委員会

【西陣児童館】

4月

- 8日 学童クラブ入部式
- ※児童館事業については、緊急事態宣言のため4月25日より5月末まで休止。

5月

- 12日 地域の子育て支援の場への職員派遣(今年度も定期的に実施)
- 17日 ぼこ・あ・ぼこ発会式
- 18日 パレードスタート

6月

- 26日 出前児童館(シャボン玉と工作)

4月

- 11日 居宅職員会議
- 20日 サービス提供責任者会議

5月

- 9日 居宅職員会議

【居宅サービス係】

- 14日 上京ねっと運営会議
- 18日 サービス提供責任者会議

6月

- 13日 居宅職員会議
- 15日 サービス提供責任者会議
- 21日、22日、24日、25日 強度行動障害支援者養成研修講師派遣

4月

- 20日 虐待防止研修会

6月

- 7日 リーダー研修会
- 29日 利用者さんボーナス支給式

【きらリンク】

4月

- 2日 北部自立支援協議会運営会議
- 22日 障害支援区分審査会
- 28日 基幹センター会議
- 30日 京都市社協日常生活

自立支援事業審査会

5月

- 12日 左京こころのふれあいネットワークワーキング会議
- 14日 京都府障害支援区分認定調査員研修
- 17日 北区こころのキャンパスネットワーク実務者会議
- 30日 京都市障害者自立支援協議会

6月

- 9日 京都市自立支援協議会権利擁護部会
- 12日 京都市障害者地域生活支援センター連絡会
- 19日 北部自立支援協議会全体会議
- 19日 相談支援事業所スキルアップ研修

【にしじん】

4月

- 1日 中部自立支援協議会事務局会議
- 8日 障害支援区分審査会
- 15日 相談支援専門員カフェ
- 22日 基幹センター会議

5月

- 13日 障害支援区分審査会
- 17日 京都市社協日常生活自立支援事業審査会
- 20日 中部自立支援協議会運営会議
- 27日 中部医療的ケア専門部会

6月

- 3日 中部自立支援協議会事務局会議
- 4日 介護職員初任者研修講師派遣
- 17日 中部自立支援協議会運営会議
- 25日 同志社大学講義



さわって、匂いで、楽しいお散歩(居宅)

※毎月、施設長会議・主任会議を実施しています。その他、諸事業諸活動においても定例活動を行っております。

センター往来

◎ 4月14日(水)京田辺市障害児者父母の会の方々が来所され、G日きたまちの施設見学をされました

◎ 5月22日(土)理事会が開催され、2020年度決算報告について承認されました。

◎ 6月12日(土)定時評議員会が開催され、2020年度決算報告、役員を選任等について承認されました。

◎ 6月12日(土)理事会が開催され、理事長の互選等について承認されました。

◎ 西陣児童館が今年度設立40周年の節目を迎えるので、京都市児童館学童連盟よりお祝い金1万円をいただきました。

◎ 新型コロナウイルス感染拡大に対するご心配やご支援をいただきましてありがとうございます。今後も引き続き感染予防対策に取り組んでまいります。

職員人事(常勤職員)

退職
 デイセンターふらっと
 鈴木はるか(6月30日付)

計報

5月31日(月)デイセンターふらっと職員の荒谷尚子さんのお母様の漢子さんの告別式が京都西田町教会にて執り行われました。天上での平安をお祈りいたします。



宝ヶ池公園 (デイセンター)



私たち名コンビ♪



つなげつなげ! プラレール



お弁当タイム 何食べてんの?

編集後記

児童館の門の前には、ミニプランターガーデンがあります。5月、昨夏に咲いたデイふらあさがおの種をまき、芽が出て、つるが伸びてきました。その横には、昨年地活ふらっとが植えた青じそやアップルミントが今年も葉を広げています。

それらのプランターの土の中には……アゲハの抜け殻(今年もご近所さんにごいただいたあおむしが、大きなアゲハになって飛びたちました!)、学童っ子がみつけてさわって弱ってしまつたダンゴムシやミミズ、「ダンゴムシのお墓に」と子どもたちが飾った花びらや枯れて摘んだお花も混ざっています。「おいしい栄養になって、次の花たちをきれいに咲かせてくれますように!」と願いながら土に還すのです。

陽の光が注がれ、雨で潤され、子どもたちの元気な声をシャワーのように浴びて、あたたかくやわらかくなった土の中から、どんな葉が育ち、どんな花が咲くのでしょうか。

暑い夏がやってきました。みなさんが笑顔で健やかに過ごされますよう、心からお祈りいたします。

住所変更のある方、当機関誌のご不要な方はFAXにて(075)451-5700 迄ご連絡下さい。

社会福祉法人 西陣会

- ・法人本部
- ・京都市民福祉センター
- ・地域活動支援センターふらっと
- ・地域生活支援事業
- ・レスパイトサービス
- TEL 〇七五 四五一八九七二
- FAX 〇七五 四五一七五〇〇
- ・西陣児童館
- ・京都市障害のある中高生のタイムケア事業 ういす
- TEL 〇七五 四五一八九七二
- FAX 〇七五 四五一七五〇〇
- ・西陣会居宅サービス係
- ・相談支援事業所 きずな
- TEL 〇七五 四一七二四一〇
- FAX 〇七五 四一七二四一〇
- ・デイセンターふらっと
- TEL 〇七五 四一七二四一〇
- FAX 〇七五 四一七二四一〇
- ・西陣会ホームとなり
- ・ショートステイ ゆう
- TEL 〇七五 四六八二〇六八
- FAX 〇七五 四六八二〇六八
- ・西陣会ホームきたまち
- TEL 〇七五 四六二一三三三
- FAX 〇七五 四六二一三三三
- ・京都市中部障害者地域生活支援センターにしじん
- TEL 〇七五 四一七二六三〇
- FAX 〇七五 四一七二六三〇
- ・京都市北部障害者地域生活支援センターきらりリンク
- TEL 〇七五 七五二一〇〇六
- FAX 〇七五 七五二一〇〇七